

# アート

## 旦那衆好みに合わせて制作

### 「大阪画壇」30人の作品展

近世から近代の大阪では数多くの画家が活躍し、「大阪(大阪)画壇」とも呼ばれる。明治以降は富裕な実業家、いわゆる旦那衆の好みに応じて描く関係が成立した。岡山・笠岡出身の上島鳳山(1875～1920)を中心に、菅楯彦、山田秋坪ら同時代の約30人の作品を集めた展覧会が、笠岡市立竹喬美術館で開かれている。

鳳山は京都・四条派や円山派に学び、官能的な美人画を得意とした。「緑陰美人遊興之図」を第3回文展(文部省美術展覧会)に出品するが落選。以後は公募展への

### 岡山で開催中、5～7月は京都で

応募はしなかったとみられる。

公募展向きの大作よりも、市井の人の求めに応える定型化された作品が多く残るのが大阪画壇の特徴だと、竹喬美術館の徳山亜希子学芸員は指摘する。大阪画壇に詳しい明尾圭造・大阪商業大准教授によると、阪神間の愛好家には、公募展での格付けといった権威に左右されず、自分好みの作品を集める気風があった。大阪には官立の美術学校が造られず、師弟関係のピラミッドがなかったことも背景にあるとみられるという。

画家と旦那衆の仲介役を務めた一人が、大阪の表具師で「井口古

今堂」の主人、井口邨僊(1867～1941)だった。自宅や別荘で茶会を開き、合作や席画の機会を設けたほか、画商やコレクターの役割も担った。今回の展示では、邨僊と鳳山の書簡、複数の画家による合作などから、大阪ならではの画家とパトロンの交流や、絵の流通形態を浮かび上がらせて。

「顔の見える付き合いの中で絵が生まれた」と徳山学芸員。「生活の中で絵をめぐる文化があった時代を知ってほしい」

「上島鳳山と大阪の画家たち」展は2月7日まで。月曜休館、一般800円ほか。5～7月、展示内容を変えて京都市左京区の泉屋博古館でも開催する。問い合わせは竹喬美術館(0865・63・3967)へ。

(安部美香子)



上島鳳山「緑陰美人遊興之図」(1909年) 笠岡市立竹喬美術館蔵



井口邨僊、上島鳳山、山田秋坪、岡本大更、北野恒富、水田竹園「合作屏風 大津絵」